

# 特集 令和4年行方市二十歳のつどい



▲市長から新成人へ記念品贈呈 代表 石井萌絵さん ▲新成人代表謝辞 実行委員長 小橋祐哉さん



1 月9日（日）、行方市文化会館において、令和4年行方市二十歳のつどいが開催されました。

今年の新成人は、平成13年4月2日から平成14年4月1日までに生まれた市内在住者および市内出身者365人です。

新型コロナウイルス感染症対策を十分に講じた会場では、晴れ着に身を包んだ新成人たちが、久しぶりに会う友人と写真を撮ったり近況を語り合ったりと、マスク越しにたくさんの笑顔であふれました。

二十歳のつどいの企画・進行は、新成人で構成する実行委員が中心となって行いました。受付時には、健康チェックシートの提出と保健師による検温・問診を行いました。会場内でも、ソーシャルディスタンス確保の呼びかけ、式典後の行動自粛の注意喚起などの感染症対策を行いました。さらに、社会貢献活動の募金の呼びかけなどを行いながら、それに応じた一人一人の協力により、新成人の門出にふさわしいつどいになりました。



▲感染症対策を実施。二十歳のつどい記念誌と本市のPR資料を配布しました。

## 二十歳のつどい 実行委員紹介

小橋 祐哉  
横瀬 厚人  
大野 晃聖  
河内 藍子  
前田 将成  
関根 怜菜  
石井 萌絵  
栗山 花奈美

根本 優輝  
大輪 健太  
石神 萌也  
岡崎 敦也  
柏葉 瑠奈  
山中 達貴  
稲葉 彩乃

※順不同、敬称略

新たな未来に向けて羽ばたく新成人の皆さんの、今後のご活躍を期待しています。

式典後のアトラクションでは、茨城住みます芸人のオस्पエンギンの二人が新成人に今後の抱負についてのインタビューを行い、激励の言葉をかけてくれました。

式典の中で、市長からは「いつの時代も、世の中を、また地域社会をつくり変え、牽引していくのは若い皆さんです。皆さんには、自分の力と可能性を信じて、自ら挑戦し、ポストコロナ時代における新しい価値と、地域を創造していただきたい」と励ましの言葉がありました。

# 祝！二十歳



## 社会貢献活動：新型コロナウイルス緊急支援募金

二十歳のつどい当日、会場にて、実行委員が中心となって募金活動を行い「**46,708円**」の募金が集まりました。皆さまからいただいた募金は、公益財団法人日本財団を通じて、コロナ禍で活躍する医師や看護師、ボランティアの活動支援などに活用されます。



## アトラクション：オスペンギン登場

茨城住みます芸人の「オスペンギン」の2人が登場し、新成人に今後の抱負についてインタビューしました。最後には、夢を追い続けることの大切さを新成人に熱く語っていただきました。





大野 晃聖さん

本日は、私たちのために、このような式典を開催してくださり、誠にありがとうございます。

現在、私は県内の大学に通っています。私たちの世代は、コロナ禍での大学入学となり、これまでの大学生活とは異なった環境下で、過ごしています。入学式もなければ、新しい友人と過ごすこともままならず、気付けば、二年が経とうとしています。その中で、私は対面での人とのコミュニケーションの必要性について、改めて感じていることがあります。

私は今、元々興味があった文房具店でアルバイトをしています。文房具店といっても幅広く、小学生が使う鉛筆から、高級万年筆まで、多くの製品を取り扱っています。私は、日々の接客の中で、お客さまがどのような物が必要としており、また、目の前の商品にはメーカーのどのような思いが込められているのか、お客さまと商品の橋渡しとなれるよう、心掛けて

います。

ある日、贈答用の万年筆を探されていたお客さまに、いつものように商品を紹介しました。その場では予定通りに贈答用として、万年筆を購入されましたが、後日、自分用にも欲しいと再度、来店されました。その際に「紹介されなかったら、万年筆なんて手に取ってなかったよ」と言われ、とてもうれしかったことを今でも覚えています。

私たちは、情報を選択できる時代にあります。知りたいニュース、見たい動画を手元でいつでも得ることが出来ます。それは、早くとも便利ですが、自らの視野を狭めているのではないかと考えることがあります。今回のように、実際に見て手に触れて、気付く良さや発見は、自分が選択するだけの世の中では得られないのではないかと、感じます。

成人を迎え、他人の意見やネットの情報に流されず、対面でのコミュニケーションを取ることで、自分の目で見て、しっかりと自分の判断ができる大人になりたいと思います。

これまで、育ててくれた両親、支えてくれた地域の皆さま、ご指導をいただいた諸先輩方へ心より感謝申し上げます。最後にはなりますが、コロナ禍の中、本日の式典のためにご尽力をいただいた、関係者の皆さまに、この場をお借りして、厚くお礼を申し上げます。新成人代表発表とさせていただきます。



柏葉 瑠奈さん

本日、私は、成人という人生の節目、大人としての門出を迎えることができました。その一方で、将来への期待に胸を膨らませると同時に、社会の一員としてのあり方や果たすべき責任について考え、不安を覚えています。この日を無事に迎えることができたのは、どんな時も一番の味方でいてくれた家族をはじめ、つらい事もうれしい事も共有し、互いを高め合ってきた友人、いろいろとご指導していただいた恩師の皆さまやいつも優しい笑顔で見守ってくださった地域の皆さまのおかげです。この場をお借りして、心より感謝申し上げます。

私は、現在、地元を離れ、大学で国際的な視点を養いながら、観光産業について、日々勉強しています。長いオンライン期間を経て、対面授業が受けられるようになった昨年、長崎の島で古民家を再生し活用する、新しいもてなしの形をプロデュースしている方のお話を伺う機会がありました。その際、非常に印象に残った言葉があります。それは『なんでもない魅力』が地方には、たくさん転がっている」というものです。

を伺う機会がありました。その際、非常に印象に残った言葉があります。それは『なんでもない魅力』が地方には、たくさん転がっている」というものです。

私は、その言葉を聞いた時、堤防から見える穏やかな霞ヶ浦や北浦の湖面、それと一体化しそうな青い空、広大な水田で風に揺れる収穫間近の稲穂、近所のおばあちゃんたちが畑の前で会話を楽しんでいる様子を思い浮かべました。以前は「何も無い、つまらない、早く都会に出たい」と感じてしまっていた地元は、実は、魅力にあふれていて、帰省するたびに、私の心を豊かにしてくれる場所であることに気付き、より郷土愛が深まりました。

まだ、具体的な将来は決まっていませんが、今後、再認識することができた行方市の良いところを忘れず、大学でいろいろな知識を培い、経験を積んで、広い視野と柔軟性のある心を持って、多面的に物事を捉える事ができる大人になれるよう精進して参ります。

結びに、本日は、新型コロナウイルス感染症防止対策を取り、私たち新人のために、このような素晴らしい機会を開いてくださり、誠にありがとうございます。どうかこれからも、まだまだ未熟な私たちに、より一層のご指導をよろしくお願いいたします。